

令和5年2月16日

福生市長

加藤 育男 様

福生市環境マネジメントシステム監査チーム

代表監査委員

小本 忠

副代表監査委員

下條 かずま

木村 秀樹

原田 康正

小澤 はる奈

環境監査等報告書

1. 日時

令和5年2月14日(火)・16日(木)

2. 対象

環境監査 契約管財課、福祉センター、防災食育センター、市民会館
優良取組選定 職員課、子ども育成課、武蔵野台児童館、子ども家庭支援課、防
災食育センター、熊川地域体育館、松林会館、わかたけ会館・図
書館、福生第六小学校、福生第二中学校、福生第三中学校

環境推進委員会(市長・副市長・教育長及び部長・参事(書))、事務局

※1 全実行部門に対し事前書面調査および所属職員を対象とするアンケート形式の意識調査を実施し、監査対象を選定した。

※2 (書)は書面監査対象

3. 監査等結果集計

	F-e 取組項目	高評価	改善 要望	優良 取組
1	各職場において環境配慮行動を実践する			
	■紙の使用量を削減する			4
	■ごみの排出量を削減する			2
	■電気の使用量を削減する	1		2
	■水の使用量を削減する			1
	■物品を購入する際に留意する			
2	公用自転車を活用し、公用車の利用による環境への影響を抑制する			
3	通勤手段が環境へ及ぼす影響を抑制する			
4	福生市の環境面での基本方針である「福生市環境基本計画」や「地球温暖化対策実行計画」を認識する			
5	日常の事務活動によって地域の環境や地球環境にどのような影響を及ぼしているのかを認識・理解する			
6	福生市が取り組む数値目標について認識・理解する			
7	市議会議員、非常勤職員、庁舎・施設に常駐・常在する事業者等に対し、環境配慮の要請を行う			
8	庁舎・施設に出入りする事業者等に対し、環境配慮の要請を行う			
9	公共施設の利用者に対し、環境配慮の要請を行う			3
10	公共工事等の際に環境配慮に取り組むとともに、調達時にはエネルギー消費量や排出係数が低減する手法を検討する			
11	環境に関連する計画について内容（策定中の場合は途中経過）を公開・提供する			
12	計画の策定や改定の際には環境配慮を土台とし、立案・策定段階から市民参加の機会を設ける			
13	環境を保全・改善する施策・事業（公園・緑地・水辺整備等）について、その内容を公開・提供する			13
14	環境影響事業について、環境に影響を与える内容（騒音・振動、廃棄物の排出、自然の減少など）を公開・提供する			
15	施設のエネルギーを管理する部署・施設では、運用改善手法を最大限に実施し、その結果を検証する			
	合 計	1	0	25

4. 総合所見

福生市環境マネジメントシステム（F-e）の令和4年度取組状況監査を実施しました。第4次地球温暖化対策実行計画に基づく温室効果ガス排出量削減に関する具体的取組と、これに関わるマネジメントの状況を点検する「環境監査」と、優れた環境配慮活動などを抽出する「優良取組選定」の2つに分けて実施しました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各実行部門に対する聞き取りはオンライン会議システムを活用したリモート形式で実施しました。

環境推進委員に対しては書面で、市長、副市長及び教育長に対してはリモート形式の聞き取りにより監査を実施しました。事務局に対しては対面での聞き取りと説明資料提示による監査を実施しました。

その結果と所見は以下のとおりです。

（1）環境監査

「特に高く評価したい点」として抽出された取組は1件、「改善をお願いしたい点」として指摘した事項はありませんでした。

環境監査での共通設問は、CO₂削減に関する項目を2つ、トップダウンによる環境マネジメントに関する項目、課・施設単位のPDCAサイクルに関する項目を各1つの計4つとし、CO₂削減の目標達成に向けた具体的な活動と部署内のマネジメントやコミュニケーションの状況を確認しました。いずれの部署・施設においても、トップ方針を受けて施設の運用改善策をしっかりと検討し、職員間で情報共有しながら取り組んでいることがうかがえました。

高評価の取組として選定したのは、市役所本庁舎のESCO事業に向けたサウンディング型市場調査の実施（契約管財課）です。福生市としてはこれまで採用したことのないESCO事業という新たな手法で、施設の老朽化への対応と省エネルギー化を同時に図ろうとしており、今後に期待が持てる取組です。

この他、高評価として選定はしなかったものの、設備の運用改善事例として次のような取組が確認できました。

- ・ 冷温水発生機の運転時間を短縮することで空調にかかるエネルギー消費を削減している（市民会館）
- ・ 空調の自動運転をやめて、利用状況を勘案して手動で細かく調整している（福祉センター）
- ・ 空調設定温度の変更ではなく風量で室温を調整している（わかたけ会館・図書館 ただし優良取組選定の対象）

令和5年度の目標達成に向けては、厳しい見通しも示されています。施設設備の改修が計画されている施設においては、長期的に運用することでエネルギーコストが低減することも踏まえ、エネルギー効率の高い設備を最大限に導入していただくことを望みます。また、既存設備の運用改善によってエネルギー効率を向上させることは、第4次地球温暖化対策実行計画の中心的課題の一つです。前述のような実際の取組事例を多くの施設で展開することで、既存の設備でも効果的な省エネを進め、目標達成を目指していただきたいと思います。

（2）優良取組選定

「特に高く評価したい点」として抽出された取組は25件で、昨年度を大幅に上回りました。

全庁的にDXが推進されていることを反映し、紙の使用量削減に関する取組が複数の施設で確認できました。電子申請・手続を新たに開始したり、タブレット利用機会を拡大したりと、近年導入された設備やシステムを活用することで紙の使用量を大幅に削減した部署・施設がありました。一方で、紙で配布していた文書をPDF配信に切り替えるという、コストをかけない方法により、業務の負担軽減と省資源を両立した施設もありました。市民サービスの向上や業務の見直しを図ることで、結果的に省エネ・省資源を実現している事例が多数あり、事務事業における環境配慮の望ましいあり方が広まってきていることが感じられました。

また、環境活動への市民参加、地域への発信や巻き込み、児童・生徒の環境学習に関する取組も多数ありました。

- ・ 子育て世代が利用する施設で子ども服のリユース活動や家庭で実施できる温暖化対策やSDGsの情報発信を行っている（子ども家庭支援課）
- ・ 学校内外の美化活動を児童・生徒と地域住民と一緒に実施している（福生第六小学校、福生第二中学校、福生第三中学校など）

- ・ 環境学習や活動の内容を地域の掲示板に掲出して情報発信を図っている(福生第三中学校)
- ・ リモートでのヒアリングをあえて施設の出入口付近で受けることで、利用者に気づいてもらい、F-eの周知に繋げることを狙った(わかたけ会館・図書館)

このように、環境配慮行動や環境学習を地域に広げていこうとする動きが見られたことは、大変喜ばしく思います。

カーボンニュートラルの達成に向けた動きが国内外で加速する中、福生市では特に家庭部門、つまり市民一人ひとりの生活に関わる場面での取組が鍵になります。市民の行動変容に繋がる場づくりや情報発信の重要性がこれまで以上に高まっています。市民との接点が多い部署・施設では、優良取組の内容を参考に、どのようなアプローチが効果的なのかを考え実践していただくことを期待します。

(3) 三役監査

○市長

令和4年度を取組状況については、コロナ対策のため空調使用時でも窓開けの必要があったことから電気使用量が増加し、目標値に向けた削減が厳しい状況であるとの認識が示されました。一方で行政手続きや業務のDXに積極的に取り組んでいることが説明されました。各実行部門のヒアリングからは、DXの実際の動きや、その効果として作業時間や紙使用量が削減されていることが分かり、全庁的にDXが進展してきている様子が確認できました。庁内のDXをリードしている職員課へのヒアリングでは、新たなシステムを導入・展開するために多くの苦労があったことが分かりました。様々な工夫でDXの進展を図っていることを高く評価します。

環境政策全般の重点事項としてはカーボンニュートラルに向けた取組が挙げられました。災害時に電気自動車を蓄電池として活用するために市内事業者と協定を結んでいることや、「東京たま広域資源循環組合」での動きとして焼却灰をエコセメント化することで、資源循環に努めていることが紹介されました。カーボンニュートラルに向け、新たな動きを積極的にリードしようとする姿勢に、市民側でも共に考え支援していきたいと感じました。

○副市長

感染症対策のための換気により、市長部局で所管する施設全体のCO₂排出量が目標値に対して12.5%の増となっていることが説明されました。職員は環境配慮行動に意識高く取り組んでいる中で、施設の構造等、職員の努力で対処しきれない要因により、目標を超過していることに悔しい思いを抱えておられることが感じられました。その中でも、高効率機器に更新した施設で良好な結果が出ていることに触れ、感染症の状況が改善すれば目標達成に近づくだらうと、期待の持てる現状もあるようです。

令和3年度に施設保全・改修計画を策定し、施設設備が壊れてから対応するのではなく、予防保全にシフトすることで、エネルギー効率等に配慮した施設更新に計画的に取り組む体制が取られ、実際に実施されていることが紹介されました。また、本庁舎ではESCO事業のサウンディング型市場調査が実施されているとのこと。新たな発想・手法で、施設設備の老朽化とエネルギー効率改善を両輪で進めていこうとしていることがよく分かりました。

○教育長

市長部局と同様に、換気のため学校・社会教育施設のCO₂排出量が目標値に対して7.1%の増となっている中、児童・生徒自らが不要な照明を消灯するように指導するなど、意識改革・人材育成を重視して取り組んでいることが説明されました。令和4年度には「この星の悲鳴に耳を傾けよう」と題したポスターを制作し、各施設で掲示するようにしたとのことですが、各学校等へのヒアリングの際には、このポスターを意識向上に役立てていることが確認できました。また、施設や利用団体の特性を反映したり、学校では児童会・生徒会が考えてスローガンを設定していること、学校だより等で保護者にも周知した学校があることも紹介されました。気候変動対策を子ども・市民が自分事として捉えられるように工夫されていることが分かりました。

目標値の達成に向けては、施設改修を予定している施設で高い効果が得られるよう、照明や空調を重点的に更新していくこと、改修予定のない施設では具体的なCO₂削減行動のため意識改革に引き続き取り組むという方針が示されました。公民館で環境講座が実施されていることにも触れ、マンネリ化を避け、具体的に行動できる人材育成を進めたいとの意欲がうかがえました。各施設・学校でも環境学習の取組が充実しており、それらを地域に発信していく動きがあります。多数の学校・社会教育施設を抱える特性を生かし、多様な角度から子ども・市民の意識改革、行動変容に繋がるアプローチをしていただくことを期待します。

(4) 事務局監査

F-e に関する会議等の開催状況や庁内での研修・情報共有に関する状況、市民等への波及に関する状況を中心に、設定した部門別目標に向けた具体的な仕組みや働きかけについてヒアリングを実施しました。ヒアリングの結果、F-e の推進に関する事務局業務が適切に実施されていることを確認しました。

特に、環境に関する情報の発信や市民と協働した環境イベントとして、環境フェスティバルにおける動画活用の拡大や ECO FRIENDLY 認証店の増加、公民館における環境講座等が紹介され、「環境協働」部門の動きが活発化していることがうかがえました。F-e の重要な目的の一つである「市民への波及」を意識した活動が各部署で展開され、改善が重ねられていることを高く評価します。

各実行部門へのヒアリングでも、市民の環境意識の向上や行動の実践を促すような取組が様々な施設から発信されていることが分かりました。こうした取組手法を庁内で共有し、特に市民との接点が多い部署・施設における活動が活性化するよう、働きかけていただきたいと思えます。

リモート形式での監査は2回目となりましたが、前回の反省を生かして被監査部署を対象とした事前研修や説明を丁寧に行ったことで、有益なやりとりができました。監査当日には活動の参考となる掲示物や制作物等をタブレットのカメラに映して説明したり、現物を監査チームに持ち込んだりするなど、被監査部門による様々な工夫のおかげで現場の状況が分かりやすかったことが、優良取組事例が多数選定されたことに繋がったと思います。しかし、やはり短時間でも実際に訪れ、現場を見たいという思いを持つ監査委員も少なくありません。事務局がタブレットを持って被監査部署間を移動する方式も、事務局の負担が大きいのではないかと懸念します。感染症の状況も落ち着きを見せつつある中、被監査部署、監査チーム、事務局の三者にとって負担が少なく、コミュニケーションが取りやすい方式を検討できると良いと思えます。

5. 項目ごとの所見

「特に高く評価したい点」として監査班が選定した取組を掲載します。

(1) 環境監査

	F-e 取組項目
1	各職場において環境配慮行動を実践する ■電気の使用量を削減する

契約管財課
(担当：1班)

本庁舎の供用開始から15年経過したことによる設備の老朽化と省エネ化の必要性を受け、空調設備・機器の更新を検討しています。現在、企画財政部と共同でESCO事業にかかるサウンディング型市場調査を実施し、事業者から有効な手法の提案を受けています。今後はその結果を踏まえ、事業実施に向けて準備を進めていきます。

(2) 優良取組選定

	F-e 取組項目
1	各職場において環境配慮行動を実践する ■紙の使用量を削減する

職員課
(担当：1班)

【実施内容】庶務事務システムの導入により、職員の申請等に関する紙使用量が約1万枚削減されました。また、採用説明会をオンラインに切り替えたことで約1,500枚の紙使用量の削減効果がありました。対面ではなくなったことから、受講者から質問しやすくなったとの感想があったとのことです。

【評価のポイント】デジタル化による業務効率化の進展に伴い、その結果として資源（紙、インク等）の大幅な削減に繋がりました。

庶務事務システムの導入にあたり、業務改善とシステムの運用試行が繰り返され、苦勞の成果が見て取れました。

電子データ管理への移行は、市行政のDX化推進に寄与し、今後大いに期待できます。

子ども育成課
(担当：2班)

【実施内容】学童クラブの入所申請について、令和5年度分の申請からオンライン申請を開始しました。申請者の利便性向上と事務効率化を目的として、市長会の助成事業を活用して導入したものです。「入所のしおり」も基本的に電子媒体で提供し、申請と同じページにまとめるなど、オンラインの操作性も工夫しています。申請者の4割がオンラインからとなりました。

【評価のポイント】申請者の利便性向上を第一に、並行して、紙や事務量等行政コストの削減を具体的に図ることに貢献したものです。多様なPRの方法（市HP、情報メール、LINE、広報紙、各保育園からのPR等）により、運用開始初年度において4割ものオンライン申請利用率となりました。

武蔵野台児童館
(担当：2班)

【実施内容】従来、紙で作成して配布していた「じどうかんだより」を、PDF化してメールで送付するようにしました。紙使用量の削減と、業務負担の軽減に繋がりました。

【評価のポイント】紙資源の削減及び事務量の軽減にも寄与する取組です。他の業務コンテンツのペーパーレス化にも拡充することを検討中とのことです。

福生第二中学校 (担当：3班) 【実施内容】タブレットの導入により、宿題や案内文などのペーパーレス化が進んでいます。一方で、片面で足りる家庭用文書などの作成機会も未だ多く、裏紙が発生することから、裏紙をサイズ別に整理して保管し、教員の内部通知用として利用しています。

【評価のポイント】タブレットの活用で裏紙の数量も減っていますが、保管状態を良好に保つことで、どうしても発生する裏紙を徹底的に活用していく姿勢が見受けられました。

	F-e 取組項目
1	各職場において環境配慮行動を実践する ■ごみの排出量を削減する

防災食育センター (担当：3班) 【実施内容】給食で提供する牛乳のプラスチックストローを、令和4年4月から廃止しました。メーカーからの提案を受けたもので、ストローなしでも飲みやすい紙パックを採用してストローをなくしたことで、年間70万本のストローを削減できました。

【評価のポイント】他自治体が導入を見送る中、率先して実現しました。ストロー廃止の意義と新しい紙パックからの飲用方法をまとめた動画を栄養士が作成して周知したことで、スムーズな導入ができていました。

熊川地域体育館 (担当：1班) 【実施内容】ペットボトルとキャップを分別回収しています。回収した数量をまとめて回収ボックスの付近に掲出し、資源回収についても適正に行われていることをアピールしています。

【評価のポイント】回収した効果を周知することで利用者の貢献が分かるようになっており、更なる協力への動機づけになっていると考えられます。

	F-e 取組項目
1	各職場において環境配慮行動を実践する ■電気の使用量を削減する

松林会館 (担当：1班) 【実施内容】夏季、日の出からの直射日光による室温上昇を避けるため、夜間のうちにカーテンを引いておくことで省エネを図っています。令和2年に空調を改修し、部屋ごとに温度設定ができるようになっていきます。照明や空調の消し忘れの確認を、忘れ物の確認とともに実施しています。

【評価のポイント】高齢者の熱中症対策として皆で考え、試行錯誤して実施しています。夏季の室温上昇は窓からの日射が大きな要素になるため、カーテンを引くことで遮光・遮熱をすることは有効な取組です。

わかたけ会館・図書館 (担当：3班) 【実施内容】電気設備事業者から情報提供を受け、空調稼働時に設定温度の上下でなく、まずは風量を調整することで室温の調整を図っています。サーキュレーターのような効果があり有効であることが確認できています。

【評価のポイント】暖房時は暖かい空気が天井付近に溜まることから、風量を上げた方が暖気が均一に広まるため、弱風で設定温度を上げるよりも効果的に部屋を暖めることができます。サーキュレーター等の設備がなくても、実践可能な取組です。図書館全体で情報共有も行っているとのことですが、その他の施設でも展開していただきたいと思えます。

	F-e 取組項目
1	各職場において環境配慮行動を実践する ■水の使用量を削減する

福生第三中学校 (担当：3班) 【実施内容】生徒及び教職員用の下足箱に新聞紙を敷いています。汚れを防止して清掃時の負荷を軽減することを目的としたものです。少なくとも14年前にはすでに行われていたようです。
【評価のポイント】環境配慮の小さな取組ですが、教職員が異動しても長年継続されていることが素晴らしいです。取り換えのタイミングで汚れていない新聞紙は、砂埃をきれいに払った上で古紙回収に出しており、最後まで無駄にしない姿勢もうかがえました。

	F-e 取組項目
9	公共施設の利用者に対し、環境配慮の要請を行う

熊川地域体育館 (担当：1班) 【実施内容】工夫を凝らしたポスターや掲示物により、職員と利用者に対して節水・節電の意識喚起を図っています。掲示物の内容は定期的に変えることで、目を向けてもらう工夫がなされています。また、教室終了後や合間の時間にスタッフが巡回し、照明の消し忘れ確認などに努めています。
【評価のポイント】オリジナルキャラクターをあしらうなど、掲示物のデザインに細やかな工夫が見られました。講師からも利用者に対して環境配慮への協力が呼びかけられています。

わかたけ会館・図書館 (担当：3班) 【実施内容】各部屋の空調は利用者がリモコンで操作できるようになっているため、鍵の受け渡し時に節電に関する注意事項を伝えていきます。リモコン周辺に貼り紙もしています。
【評価のポイント】貸出の都度、声掛けをすることで、利用者の注意を促すことができていると思います。

わかたけ会館・図書館 (担当：3班) 【実施内容】当日のヒアリングを入口周辺の利用者に目立つ場所にて実施していました。
【評価のポイント】ヒアリングを目立つ場所にて実施することにより利用者の関心を引き、よいPRになっていると思います。

	F-e 取組項目
13	環境を保全・改善する施策・事業（公園・緑地・水辺整備等）について、その内容を公開・提供する

武蔵野台児童館 (担当：2班) 【実施内容】児童館横の畑を無償で一部借り受け、キュウリ、ナス、ネギ、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、チューリップ球根等を栽培しています。参加者は学童クラブを含む利用者呼びかけて募集し、土づくりから取り組んでいます。栽培に当たっては、児童館スタッフの経験やインターネットから情報を得る他、地主農家のアドバイスも受けています。
【評価のポイント】コロナ禍以前は、収穫した野菜を使った調理実習まで実施されていました。農地の少ない福生市において、地産地消を体感できる貴重な事業であると思います。

- 子ども家庭支援課
(担当：2班)
- 【実施内容】子ども家庭支援センターの利用者による子ども服リユースの取組を「ゆずりゆうす」として実施しています。子どもの成長により着られなくなった衣類を回収し、参加者同士で交換を行う場を提供するものです。友達づくりなど環境配慮以外の効果もあったとのことです。
- 【評価のポイント】ユニークで親しみやすい名称をつけ、衣替えの時期に合わせた実施や、出品者に簡易的な包装とサイズ表記をしてもらうことで、有効に再利用できる仕組みができています。子育て世代の市民に環境配慮行動を意識してもらう格好の機会となっています。
- 子ども家庭支援課
(担当：2班)
- 【実施内容】施設を利用する市民に環境に関する情報を周知し、家庭での取組を促す掲示物とチラシを作成しています。「おうちで地球温暖化防止チェックリスト」は、家庭で実施可能な省エネなどの温暖化対策をまとめたものです。「わたしとせかいのつながりかるた」は、施設を利用する児童・生徒（概ね高学年以降）をターゲットに、SDGs と身の回りのことを関連づけて紹介する掲示物です。
- 【評価のポイント】ルビややさしい表現を用いたチェックリストを、持ち帰っても家庭で活用できるように配布し、大人から子どもまで施設利用者一人ひとりに対して環境配慮の意識づけを図っています。また、「かるた」というなじみやすいものを掲示し、施設を利用する小中学生にSDGs や環境配慮に関する気づき、振り返り、動機づけを行っています。各掲示物・チラシのデザインや内容は、施設の若手職員がアイデアを出して形にしたものです。
- 防災食育センター
(担当：3班)
- 【実施内容】市内7校の小学3年生が毎年社会科見学を訪れ（約400名）、調理委託業者と栄養士が対応しています。説明の中でフードロスについても触れており、啓発の機会を作っています。
- 【評価のポイント】身近な給食からフードロスについて考える、良い機会になっています。牛乳のカルシウム含有量を分かりやすくインパクトのある図示で説明するなど、教材や掲示物にも工夫が見られました。
- 松林会館
(担当：1班)
- 【実施内容】松林ウインターワークショップにおいて、藤のつるなど自生している草花を使ったクリスマスリース製作が行われています。
- 【評価のポイント】資源循環や身近な自然を意識した環境意識の啓発が、楽しい制作活動を通じて実施されています。活動が継続されていることも素晴らしいです。
- 松林会館
(担当：1班)
- 【実施内容】令和3年度から環境講座に取り組んでおり、令和4年度は「環境問題」と「水害」の内容を合わせた環境防災講座が行われています。
- 【評価のポイント】環境防災講座として、環境問題と福生市での水害をミックスした講座にするなど、内容に興味を持たせ参加につなげる工夫があり、環境意識向上につながる取組が積極的に行われています。
- わかたけ会館・図書館
(担当：3班)
- 【実施内容】独自の工夫として、施設に設置されている太陽光発電設備の年間発電量をグラフにして貼り出しています。
- 【評価のポイント】再生可能エネルギーの効果を可視化してPRしています。電気代高騰を踏まえ、電光掲示板でなく掲示物での情報発信を継続しています。
- 福生第六小学校
(担当：1班)
- 【実施内容】環境に関するポスターの掲示により、照明の消し忘れ、エアコンの温度設定など省エネ意識を高めています。また、ごみの分別や削減について、用務主事による研修を行っています。

【評価のポイント】ポスターに記載する宣言や取組は各学級や委員会で話し合い、ポスターに書き加えています。児童が自ら考えて明文化しています。児童が自主的に照明を消したりすることもあるとのことです。全校を挙げて環境配慮に取り組もうとする姿勢がうかがえました。

福生第六小学校
(担当：1班)

【実施内容】敷地内にビオトープとして整備された「六ちゃん池」を、3年ぶりに清掃しました。児童や地域住民も参加して実施し、池の水は雨水を貯めたものを利用するなど、環境に配慮した方法で行いました。
【評価のポイント】地域連携のもと、社会への繋がりや環境に関する生きた教育が実践されています。今後はメダカを飼育する構想もあるとのことで、今後の展開が期待できます。

福生第六小学校
(担当：1班)

【実施内容】花いっぱい運動では、校内の植栽にとどまらず、やなぎ通りのプランターにも植栽し、地域と連携して環境緑化に取り組んでいます。また、3～6学年で、各学年毎「地域社会・環境」の学習を行っています。(3年生：わたしたちの住む町、4年生：地域のお祭りを調べよう、5年生：神明緑道のひみつ、6年生：日光情報局)
【評価のポイント】花いっぱい運動には環境委員会の児童が中心となって取り組んでいます。また、「地域社会・環境」学習を通じて地域社会や環境への関心を高めています。(子どもたちがiPadを活用し、調査・まとめを行いプレゼンテーションしています。)

福生第二中学校
(担当：3班)

【実施内容】4年前にコミュニティ・スクールとなったことをきっかけに、生徒による近隣公園の美化活動を始めました。
【評価のポイント】全校生徒400名を対象に自由参加とした結果、90名の参加があり、生徒も楽しんで参加し反応も好評であったとのことです。地域の中で役立つ喜びを実感できる機会としても重要な取組だと思います。

福生第三中学校
(担当：3班)

【実施内容】部活動の一環として月1回程度、部ごとに地域美化活動を実施しています。
【評価のポイント】地域の方から感謝の言葉をかけられ、参加した生徒は自己有用感を高めているようです。さらなる参加意欲の高揚に繋がっており、ボランティア育成にも寄与している取組と感じました。

福生第三中学校
(担当：3班)

【実施内容】地域の掲示板に、環境活動を含む学校の取組状況を掲示しています。掲示期間終了後は、校内にて再掲示しています。
【評価のポイント】地域の掲示板にも掲示することにより、地域にも環境活動の大切さを発信することに繋がっています。学校での活動を公開することで、地域の中で生徒を育む雰囲気も作れるのではないかと感じました。

※「特に高く評価したい点」として選定した取組以外にも、監査班から所見を付しています。個別にフィードバックする所見票で確認してください。